

## 2021 年度第 1 四半期 決算説明会サマリー

2021 年 8 月 6 日開催

### (1) 2021 年度 第 1 四半期 決算概要 (前年比) 単位：億円

新型コロナウイルスのマイナス影響がまだ残るものの、スペシャリティー重視の Denka Value-Up の施策が功を奏して、第 1 四半期として過去最高益を更新する結果となった。

①売上高 867 +105 数量差+130、売価差+57、収益認識に関する会計基準変更△82

新型コロナウイルス影響からの需要回復、xEV 関連・半導体関連製品の需要伸長などにより、前年同期比数量差 +130 億円。売価差は、原材料価格上昇に伴うスチレン系製品販売価格改定等により +57 億円。収益認識に関する会計基準変更により、△82 億円。合計+105 億円の増収。

②営業利益	77	+ 33	
数量差		+ 63	新型コロナウイルス影響からの需要回復、 その他 (xEV 関連・半導体関連製品の需要伸長、他)
売価差		+ 57	原材料価格上昇に伴うスチレン系製品販売価格改定等 (為替変動影響+2 含む)
変動原価差		△ 80	原材料価格上昇、他 (為替変動影響+2 含む)
コスト差		△ 7	その他本社費・製造費等
-----			
要因別内訳計		+ 33	

需要回復や xEV・半導体関連製品の需要伸長が、スプレッド (製品売価と原材料価格との差額) の悪化を吸収し、前年同期比+33 億円増益

### (2) 2021 年度上期 業績予想 (期初予想比) 単位：億円

半導体関連製品などのスペシャリティー製品の販売が好調であり、また新型コロナウイルス抗原迅速診断キットの販売価格が当初想定を上回る見通しであることから、上期業績予想を上方修正。

①売上高 1,850 +100 数量差+5、売価差+95

半導体関連製品やクロロプレンゴムなどの上振れと、インフルエンザワクチンなどの下振れの可能性を織り込み、期初予想比数量差+5 億円。売価差は、新型コロナウイルス抗原迅速診断キットの売価の上方修正と、原材料価格上昇に伴う製品価格改定などにより、+95 億円。合計で+100 億円の増収。

②営業利益	220	+ 30	
数量差		△ 4	インフルエンザワクチンの数量減影響など
売価差		+ 95	新型コロナウイルス抗原迅速診断キットの想定売価の上方修正、 原材料価格上昇に伴うスチレン系製品価格改定、他 (為替変動影響 + 9 含む)
変動原価差		△ 63	原材料価格上昇、他 (為替変動影響△5 含む)
コスト要因		+ 2	その他本社費・製造費等
-----			
要因別内訳計		+ 30	

売価差のプラスが原材料価格上昇による変動原価差のマイナスを上回り、期初予想比+30 億円増益

### (3) 2021 年度通期 業績予想

需要の回復やスペシャリティー事業が進展する上期の傾向が続き、業績予想が上振れる可能性も十分あると考えるものの、足元の新型コロナウイルス感染拡大の状況下で、第 3 四半期以降の見通しについてはまだ精査している段階であり、今回は期初予想の予想営業利益 420 億円を据え置く。

#### (4) 株主還元

##### 【期初予想から変更なし】

2020 年度配当 : 125 円/株 (中間 60 円・期末 65 円)、配当性向 47%  
2021 年度配当予想 : 135 円/株 (中間 65 円・期末 70 円)、配当性向 40%

株価推移などに応じ機動的な自己株式取得も実施し、総還元性向 50%を基準とする方針を継続

#### (5) Denka Value-Up 2022 年度数値目標

2022 年度の数値目標：営業利益 500 億円 (前年比)

(セグメント別内訳)

電子・先端プロダクツ	220 億円 (+50 億円)
ライフイノベーション	110 億円 (+ 5 億円)
エラストマー・インフラソリューション	70 億円 (+30 億円)
ポリマーソリューション	110 億円 (+15 億円)
その他/消去等	△10 億円 (△20 億円)
-----	
合計	500 億円 (+80 億円)

Denka Value-Up 最終年度となる 2022 年度は、スペシャリティ戦略をさらに推し進めるとともに、新型コロナウイルスのマイナス影響が払拭されることを勘案して、数値目標営業利益 500 億円の達成は十分可能であると考えている。

#### (6) 主な質疑応答

##### ① 電子・先端プロダクツの需要動向

- ・球状アルミナ、アセチレンブラックの需要伸長が継続。半導体不足による自動車メーカー生産減の影響を一部受けるものの、7 月以降回復の見通し。
- ・溶融シリカや高機能フィルムの半導体関連製品は、コロナ禍でのリモート需要などにより強い需要が続くと見込む。

##### ② 新型コロナウイルス抗原迅速診断キットの販売状況

- ・海外品流入による市価の下落などのリスクを織り込んでいた期初予想の想定単価ほどは下がっていない。
- ・厚生労働省により公表された買い上げ金額には、昨年度の売上に計上済みの販売提携先の流通在庫も含まれている。

(参考) 2021 年 8 月 6 日発表「新型コロナウイルス抗原迅速診断キットを日本政府に供給 (続報)」

[https://www.denka.co.jp/storage/news/pdf/912/20210806\\_denka\\_quicknavi\\_covid19ag.pdf](https://www.denka.co.jp/storage/news/pdf/912/20210806_denka_quicknavi_covid19ag.pdf)

##### ③ クロロプレンゴムの需要動向と値上げ状況

- ・好調な需要を背景に需給バランスが逼迫する中、原材料価格が上昇しており、値上げを発表。今後も原材料価格が上昇する可能性があり、機動的に価格転嫁を行っていく。

(参考) 2021 年 8 月 2 日発表「クロロプレンゴム価格改定のお知らせ」

[https://www.denka.co.jp/storage/news/pdf/905/20210802\\_denka\\_chloroprene.pdf](https://www.denka.co.jp/storage/news/pdf/905/20210802_denka_chloroprene.pdf)

##### ④ 製造経費・販管費等

- ・期初予想では、新型コロナウイルスの影響による活動制限の解消を前提としたコストを想定していたが、今も不要不急の移動制限・外出自粛が求められる状況であり、経費支出が抑えられている。今後も制限が続く状況では、期初予想に対して経費支出が抑制される可能性がある。

以上